

2020年の回顧と新年の展望

～ 2020年の回顧 ～

国内景気

～新型コロナウイルス感染症の影響で急激に落ち込んだ後、緩やかな回復へ

2020年の国内景気を振り返りますと、前半は中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い社会経済活動が大幅に制限されたことで、内需・外需ともに落ち込むなど急激に悪化しました。年後半は、経済活動の再開に伴い回復の動きがみられましたが、同感染症の再拡大への警戒感が残るなか、そのペースは緩やかなものに止まりました。

項目別にみますと、個人消費は、年央にかけて同感染症が拡大するなか、緊急事態宣言の発出に伴う外出自粛強化や店舗の休業により激減しました。夏場以降は外出自粛の緩和に伴う繰り延べ需要の顕在化や特別定額給付金などの政策効果もあり、緩やかな改善が続きました。

設備投資は、企業収益が大幅に悪化したことや世界経済の先行き不透明感から、計画を見送る動きが強まりました。また、労働需給が緩和されるなか、近年の傾向である省力化・省人化投資ニーズは縮小しました。

生産は、世界的に行動制限が広がりを見せるなか、サプライチェーンの寸断や工場の稼働停止等により、大幅な減産となりました。その後は各国での経済活動再開に伴い、中国、米国向けの輸出が増加に転じるなど、急激な回復の動きがみられましたが、各国での同感染症の流行再拡大が重石となり、回復ペースは次第に鈍化しました。

県内景気～新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続く

県内景気を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、経済活動が抑制されたことで急激に悪化しましたが、秋口以降は経済活動が再開したことや政府・自治体の支援策も相俟って、緩やかな持ち直しの動きがみられました。

項目別に見ますと、個人消費は、食料品をはじめパソコンやエアコンなど巣ごもり消費が堅調に推移しましたが、緊急事態宣言の発出など外出を控える動きが強まるなかで、新車登録台数が減少傾向で推移したほか、外食、レジャーの需要も大きく落ち込むなど、不要不急の消費は軟調に推移しました。年後半には、政府や自治体の支援策の効果が広がるなかで、持ち直しの動きもみられました。

設備投資は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことから世界経済や景気の先行き不透明感が増しており、製造業、非製造業ともに新規投資への慎重姿勢が強まりました。なお、公共投資が横ばい圏で推移している一方、住宅投

資は、新設住宅着工戸数が減少傾向を辿りました。

生産は、本県の主力産業である機械工業で、弱い動きが続きました。リモートワークの拡大や巣ごもり生活の浸透などで通信環境整備の必要性が高まったことや、次世代通信規格「5G」の本格化に伴い半導体製造装置やスマートフォン向け電子部品など堅調な品目がみられた一方、自動車部品や工作機械、産業用機械など多くの品目では前年を大きく下回る水準で推移しました。また、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業は、ミネラルウォーターなど巣ごもり関連の品目で増産の動きがみられたものの、外出自粛や販売店の休業、催事・展示会の中止などを背景に、全体としては厳しい局面が続きました。

また、観光関連をみますと、年初に中国からの観光客が急減したほか、同感染症の拡大に伴い、外国人観光客はほぼ皆無となりました。国内観光客も、外出自粛の意識が高まるなかで、低調に推移しました。夏場以降は、GoTo キャンペーンの効果から徐々に改善の動きがみられ、東京都発着の旅行が対象に加わった秋口には、前年同期の宿泊者数を上回る施設もみられました。

～ 新年の展望 ～

国内景気～緩やかな回復基調を辿るが、感染拡大への警戒感が重石に

2021年の国内景気は、経済活動の制限が和らぐなかで世界経済が回復に向かうことや、次世代通信規格「5G」の本格普及、第32回オリンピック競技大会（2020/東京）及び東京2020パラリンピック競技大会の開催など需要の押し上げ要素があることから、持ち直しの動きは維持されるものとみられます。ただし同感染症の収束時期が見通せないなか、感染拡大防止に配慮した経済活動となるため、回復ペースは穏やかなものになると予想されます。

項目別にみますと、個人消費は、企業収益が改善し、雇用所得が改善に向かうことを背景に緩やかな回復基調を維持することが期待されます。オリンピックが同感染症の拡大防止に配慮し規模を縮小しての開催となる可能性があるものの、一定の盛り上がりが見込めるほか、消費マインドの改善などによる消費の押し上げも見込まれます。

設備投資は、同感染症の収束の兆しが見えるまでは慎重な投資スタンスが維持され、当面は弱い動きが続くと思われれます。

生産は、世界の経済活動が正常化へ進んでいくとことが見込まれるなか、輸出の増加に伴い回復に向かうことが期待されます。ただし、欧米諸国での感染症対策の規制強化が長引く場合には、生産の減少要因となる可能性もあるため、注視していく必要があります。

県内景気～緩やかに持ち直すも、先行きに強い不透明感

県内景気は、基本的には国内と同様の動きを辿ると考えられます。設備投資で慎重姿勢が続く一方、個人消費は改善傾向で推移することが見込まれるほか、生産面でも機械工業が持ち直していくとみられることから、全体としては緩やかな回復に向かうと予想されます。ただし、感染拡大防止と経済活動の両立を図るな

かで、そのペースは緩やかなものに止まるものと考えられます。また、同感染症の拡大状況如何によっては、再び悪化に向かう可能性もあるなど、先行きへの不透明感も強まっています。

個人消費は、「新しい生活様式」が求められるなかで外出を控える動きが続き、不要不急の消費活動が弱含む一方、巣ごもり消費などは堅調に推移すると考えられます。また、店舗・消費者の感染防止対策が広がっているほか、政府や県・自治体などの需要喚起策もあり、消費マインドも徐々に回復に向かうことが期待されます。ただし、雇用・所得環境の状況如何によっては大幅に下振れる可能性もあるため、当面は、年前半の企業業績と夏季賞与の支給状況に注目していく必要があります。設備投資は、先行きに対する不透明感から、力強さを欠く動きが続くと予想されます。一方、公共投資は、防災・減災関連の投資が底堅く推移していくとみられます。

生産について、半導体製造装置や 5G 関連の電子部品などを中心に機械工業の持ち直しの動きが続くとみられます。一方、宝飾、ワイン、ニット、織物などの地場産業については、人口減少等による国内需要の伸び悩み、輸入品との競合激化などから、機械工業と比べると総じて厳しい局面が続くと思われれます。ただし、コロナ禍においてオンライン販売の需要が拡大しているなかで、インターネットを活用した新たな販売チャネルの拡大や新規イベントの創出などに取り組むことで、ビジネスチャンスは広がるものと考えられます。

観光関連は、当面の間外国人観光客の復調は見通せないものの、各事業者が感染防止対策に取り組むなかで、首都圏に近い優位性を生かして国内観光客を取り込むことが期待されます。また、2021 年中に予定されている中部横断自動車道の南部区間全線開通による、東海・中京方面からの観光客増加も見込まれます。

～ 丑（うし）の話 ～

2021 年は、丑（牛）年です。牛は、旧石器時代の遺跡の出土物から狩猟の対象とされていた様子が窺われるなど、非常に古くから日本人の生活に関わりがありました。家畜化されたのは、縄文時代から弥生時代にかけてのことといわれており、農耕や交通・運搬のために多く利用されてきました。

各地の地名に「牛」の字がみられるのも、人々の生活と深く根差していたからでしょう。県内の地名（大字）で見ると、「牛匂」（甲斐市）、「塩山牛奥」（甲州市）、「野牛島」（南アルプス市）がみられます。また、塩山牛奥地区の東方にある「牛奥ノ雁ヶ腹摺山（うしおくのがんがはらすりやま）」（大月市）は日本一長い名前の長い山といわれ、富士山のビュースポットとしても知られています。

もう一つ、本県には、地域を守ってきた「牛」があります。河川の治水に用いられた「聖牛」（せいぎゅう・ひじりうし）です。

2021 年に生誕 500 年を迎える武田信玄は、甲府盆地の治水事業に取り組みました。その名を冠した「信玄堤」は有名ですが、堤防のほかにも急峻な山々から流れ込む河川をコントロールするために様々な方法を組み合わせており、その一つが聖牛です。

聖牛は、洪水時の川の勢いを弱めるための構造物です。木材を三角錐の形に組み、石を詰めた竹かご（蛇籠）の重さによって河原に固定するもので、大きなものでは高さが 5m 程にもなります。名前の由来は諸説ありますが、組み上げた上部が牛の角のように見えることによるとも言われています。河原は砂や石が多く、構造物を固定しにくいですが、聖牛は、水の勢いを利用して自らの躯体を沈めるしくみになっており、身近に入手できる材料で最大限の効果を生もうとした先人の知恵が窺われます。

わが国の丑年の歴史を振り返りますと、大宝律令の制定（701）、古今和歌集の編纂（905）、武田晴信（信玄）家督継承（1541）、島原の乱（1637）、目安箱の設置（1721）、天保の改革（1841）、ペリー来航（1853）、西南戦争（1877）、大日本帝国憲法発布（1889）、日中戦争開始（1937）、お年玉年賀はがき発売開始（1949）、第一次オイルショック（1973）、プラザ合意、男女雇用機会均等法成立（1985）、民主党への政権交代（2009）などの出来事がありました。

また、山梨県関連では、初の県会議員選挙（1877）、甲府に市制施行（1889）、山梨大学発足（1949）、石和町で温泉湧出（1961）、県機械金属工業団地完成（1973）、全国初の「高山植物保護条例」成立（1985）、山梨リニア見学センターオープン（1997）、新山梨環状道路南部区間供用開始（2009）などの出来事がみられました。

丑年生まれの名人としては、浅井慎平、綾瀬はるか、イチロー、上戸彩、宇野昌磨、カール・ルイス、堺雅人、杉原輝雄、丹下健三、ドヴォルザーク、中井貴一、仲邑菫、バッハ、松山ケンイチ、三島由紀夫、宮沢りえ、村上春樹、森繁久弥、矢沢永吉、山口誓子、ルノワールなどがいます。

陰陽五行によると、2021年は「辛丑（かのと・うし）」にあたります。「辛」には、草花が枯れて新しくなろうとする、という意味があります。また、「丑」は、種子に詰まった芽がまだ伸びていない状態や、糸が入り組んでいる状態、幼子の縮んだ手が開こうする状態を示すと言われており、「始める」「結ぶ」「つかむ」などの意味があります。これらをあわせると「辛丑」の年は、「新たな時代での成長に向け、人々のつながりをもって動き出す年」ということになりましょうか。

2020年は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、これまでの社会経済の様々なあり方が見直しを迫られた年となり、2021年は変化の只中で迎えることとなります。先行き不透明感は未だ拭えませんが、「牛の歩みも千里」の言葉どおり、未知の時代であっても足元の一步を重ねることは確かな前進につながります。各所のこれまで培ってきた知恵を活かすことはもとより、それぞれの長所を活かしてつながり、支えあうことで、新たな価値観に基づく社会経済下での躍進を目指したいものです。

※ 安岡正篤「干支の活学」などを参照して当社にて作成

2020年12月
山梨中銀経営コンサルティング株式会社